

DSHDR2 SECS/HSMS

レベル2通信ドライバー



取り扱い説明書

Windows 版

2011年4月

株式会社データマップ

文書番号 DSHDR2-11-WindowsTrialInstall-00



1. はじめに	3
2. DSHDR2 評価版プログラムのインストール	4
2.1 ダウンロードとインストール	. 4
2.2 インストールとファイル	. 6
3. サンプルプログラムの作成	6
4. プログラムの準備と実行	7
4.1 通信環境定義ファイルの設定	. 7
4. 2 実行	. 7
5. コマンド操作と処理	8
6. 操作例	9



1.はじめに

Windows の. Net 環境上で操作する HSMS 通信ドライバーの評価版の取り扱いについて説明します。

開発環境	:	Microsoft Visual Studio 2008
言語	:	C#2008, VB2008

弊社データマップのホームページから評価版プログラムをダウンロードして、動作を確認することができます。 ダウンロードした評価版プログラムは、DSHSIM-V3.0 HSMS 通信シミュレータと接続してテストします。 DSHSIM シミュレータは、評価版プログラムと同様にホームページからダウンロードし使用するこができます。

手順は次のようになります。





2. DSHDR2 評価版プログラムのインストール

2.1 ダウンロードとインストール

- (1)弊社ホームページからダウンロード
 <u>http://www.datamap.co.jp/dshdr2/</u>からダウンロードします。
 Windows版評価プログラム : setup_windows.exe
- (2) インストールの手順

<u>http://www.datamap.co.jp/dshdr2/</u>T からダウンロードした setup_windows.exeプログラム を起動します。起動が開始されると、途中の操作画面でインストール先を問合せてきますので、そこで ドライブ名とフォルダー名を指定して下さい。その後、流れに沿って操作すれば自動的にインストール されます。

以下、setup. exe 起動後に表示される操作画面を順に示します。

DSHDR2 HSMS 通信ドライ	バー 評価版 - InstallShield Wizard	
2	DSHDR2 HSMS 通信ドライバー 評価版用のInstallShield ウィザードへようこそ	
	InstallShield(R) ウィザードは、ご使用のコンピュータへ DSHDR2 HSMS 通信ドライバー 評価版 をインストールしま す。「次へ」をクリックして、続行してください。	
	警告: このプログラムは、著作権法および国際協定によって保護 されています。	
	< 戻る(B) (次へ似) キャンセル	次へのをクリックします。
	\downarrow	
DSHDR2 HSMS 通信ドライ インストール先のフォルダ このフォルダにインストール フォルダにインストールする のSHDR2 HSMS j C¥Program Files	(パー 評価版 - InstallShield Wizard する場合は、「次へ」をクリックしてください。別の 場合は、「変更」をクリックします。 動信ドライバー 評価版 のインストール先: fictamanaXebdr22	
		1
		ジュレータのインストール先を指定します
		もし、表示されたデフォルト以外の
		所にインストールしたい場合は、
		変更(C) をクリックし、インストール
		たい場所を設定してください。
allShield		設定が済んだら
pamar mendi -	< 戻る(<u>B</u>) ()次へ(<u>N</u>)> キャンセル	次へ(N) をクリックします。

(次ページ)



🔐 DSHDR2 HSMS 通信ドライバー 評価版 - InstallShield Wizard 🛛 🔀	
プログラムをインストールする準備ができました	
ウィザードは、インストールを開始する準備ができました。	
インストールの設定を参照したり変更する場合は、「戻る」をクリックしてください。「キャンセル」をクリックすると、ウィザードを終了します。	
現在()設定:	
297797 917:	
インストール先フォルダ: C:¥Program Files¥datamap¥dshdr2¥	
고-ザ情報:	
名前: MiyakoshiYoshikazu 会社: Data Man	
Z47: Dara wah	
InstallShield	【/ンストール(I) をクリックします。
く戻る(B) インストールの キャンセル	これでインストールが開始します。
BOSHDR2 HSMS 通信ドライバー 評価版 - InstallShield Wizard Low A State A State State	
DSHDR2 HSMS 通信トライハー 評価版 をインストールしています 弾択 たづログラム機能をインストールにています。	
□□ InstallShield ウィザードは、DSHDR2 HSMS 通信ドライバー 評価版 をイ ゴーマーンストールしています。しばらくお待ちください。	
X7-9X:	
InstellShield	インストール実行中の画面です。
_ 〈 戻る(8) / 次へ(10) > (キャンセル)	
InstallShield ウィザードは、DSHDR2 HSMS 通信ドライバー 評価版 を正常にインストールにました。「完了」をクリック」。	
て、ウィザードを終了してください。	
and the second se	
and the second	
	完了(E) をクリック し、
	1/21-1/2011-1000000000000000000000000000
< 戻る(型) (見る(型) キャンセル	



2.2 インストールとファイル

	ディレクトリ	Jrflu名
1	bin	実行プログラムファイルなど
		dshdr2Sample.exe
		comm. def
		dshdr2. dl1
		log_mon.exe _o log_mon.dll
2	cs2008¥	C# Solution File
		dshdr2Sample.sln
	cs2008¥dshdr2Sample¥	C# source file
		fomMain.cs
		formMain.Designer.csなど
3	vb2008¥	VB Solution File
		dshdr2Sample.sln
	vb2008¥dshdr2Sample¥	VB source file
		formMain.vb
		formMain.Designer.vb
4	doc¥	DSHDR ドライバーユーザーズガイド_DotNet 版.pdf
		DSHDR2-11-WindowsTrial-INSTALL.doc

デモプログラムは、¥Program Files¥datamap¥dshdr2_windows¥の下に保存されます。

3.サンプルプログラムの作成

Microsoft Visual Studio 2008 で、C#, VB それぞれの実行プログラムを生成します。 実行ファイルは次の通りです。

- C# : dshdr2SampleCs.exe
- VB : dshdr2SampleVb.exe

本サンプルプログラムは、.Net のクラスプログラミングによって作成されています。 dshdr2.dl1 通信ドライバーの API 関数は、dshdr2.cs, dshdr2.vb ファイルにクラスの定義がされています。



4.プログラムの準備と実行

4.1 通信環境定義ファイルの設定

comm. def 通信環境定義ファイルの内容をDSHSIM シミュレータに合わせます。 DSHSIM を Passive 側とした場合、comm. def ファイルの IP の値をDSHSIM PC の IP に合わせます。

comm ファイル保存場所	/usr/datamap/dshdr2/test
設定内容	HSMS-SS Active
(合わせる内容)	TCPIP PORT = 5001
	Session ID = $0x1234$
	IP ← DSHSIMのIPアドレスを設定する

4.2 実行

マイコンピュータ、エクスプローラまたはコマンドプロンプトを使って3.で生成した実行プログラムを開始します。

以下のメイン画面が表示されます。

🔜.Net c#2008 DSHDR2 HSMS-SS通信ドライパー プログラムサ	₩7 ₩	- 🗆 🗵
D_StartDriver D_StopDriver D_StartPort Port-1 D_StopPort D_StartDevice Device-1 D_StopDevice		A
	ログ表示を	
D_CheckReady 空창TRID数 D_GetSerialNo		×
終了		

以下、D_StartDriver, D_StartPort, D_StartDevice ボタンの順にクリックし、DDSHSIM シミュレータと接続し、その上、1次メッセージの送信は SendS?F? ボタンを使って送信します。また、相手からの受信メッセージは、サンプルプログラムの受信ポーリングを行い、受信し応答処理をします。

ボタンで実行した結果そして、送受信したメッセージの内容表示は、「グ表示・パーに表示されます。



5.コマンド操作と処理

実行を起動すると、テストプログラムが D_OpenDriver()関数を使って自動的にドライバーを開始します。 操作はボタンを使って行います。

ボタン	機能
D_StartDriver	ドライバーを開始します。
D_StartPort	ポートを選択し、開始します。
D_StartDevice	デバイスを選択し、開始します。
D_StopDriver	ト・ライハーを停止します。
D_StopPort	ポートを選択し、停止します。
D_StopDevice	デバイスを選択し、停止します。
D_PollDevice	選択されたデバイスのポーリングを行います。 (ポーリングは送信結果イベント, 受信イベントが対象)
Start Poll	ポーリングタイマーを使って周期的に D_PollDevice を実行します。
D_CheckReady	相手との Selection が確立しているかどうかを調べる。
SendS1F13	S1F13 メッセージを送信します。
SendS5F1	S5F1 メッセージを送信します。
SendS6f11	S6F11 メッセージを送信します。
SendS2f31	S2F31 メッセージを送信します。
空TRID数	ドライバーの管理するトランザクション ID で、未使用状態にあるものの数を表示します。
D_GetSerialNo	製品のシリアル番号を表示します。
終了	サンプルプログラムを終了します。
Port-1	ポート番号を選択します。
Device-1	デバイス番号を選択します。
メッセージ詳細表示する 🔻	送受信した SECS-II メッセージの内容をリスト構造で表示するかどうかを選択します。



6.操作例

ボタン操作

ログ表示

D_StartDriver本、タン	$D_{\text{StartDriver}}() = 0$
D_StartPort ボタン(port-1 選択)	$D_{\text{StartPort}}(1) = 0$
D_StartDeviceボタン(device-1 選択)	D_StartDeveice(1) = 0
Start Pollずタン	
D_CheckReady 本 タン	device-1 is ready (selected)
	D SendRequest $(1) = 0$
SendS1F13 ボタン	$D_{\text{SondRequest}}(1) = OK(\text{pol}1)$
	$D_{\text{Density}}(1) = 0$
	$D_{\text{Receive}}(1) = 0$
	S1F14
	<l 2<="" td=""></l>
	$\langle B[1] = 0 \rangle$
	<l 0<="" td=""></l>
	\rangle
	\rightarrow
(S6F11 受信)	S6F11
	$\langle III[1] - 0 \rangle$
	$\langle 04[1] = 0\rangle$
	$\langle 04[1] = 100 \rangle$
	<l i<="" td=""></l>
	<l 2<="" td=""></l>
	$\langle U4[1] = 100 \rangle$
	<l 2<="" td=""></l>
	<a[16] "2011050113024847"="" ==""></a[16]>
	$\langle U2[1] = 2 \rangle$
	\rangle
	\rangle
	\rightarrow
	S6F11 received
	S6F12
	SU/12
	\D[1] - U/
D StopDevice ボタン	$D_{\text{stop}} = 0$
D StopPort $t^{*}k'$	$D_{\text{StopPort}}(1) = 0$
	$D_{\text{StopDriver}}() = 0$
J_Stopuriver № %/	